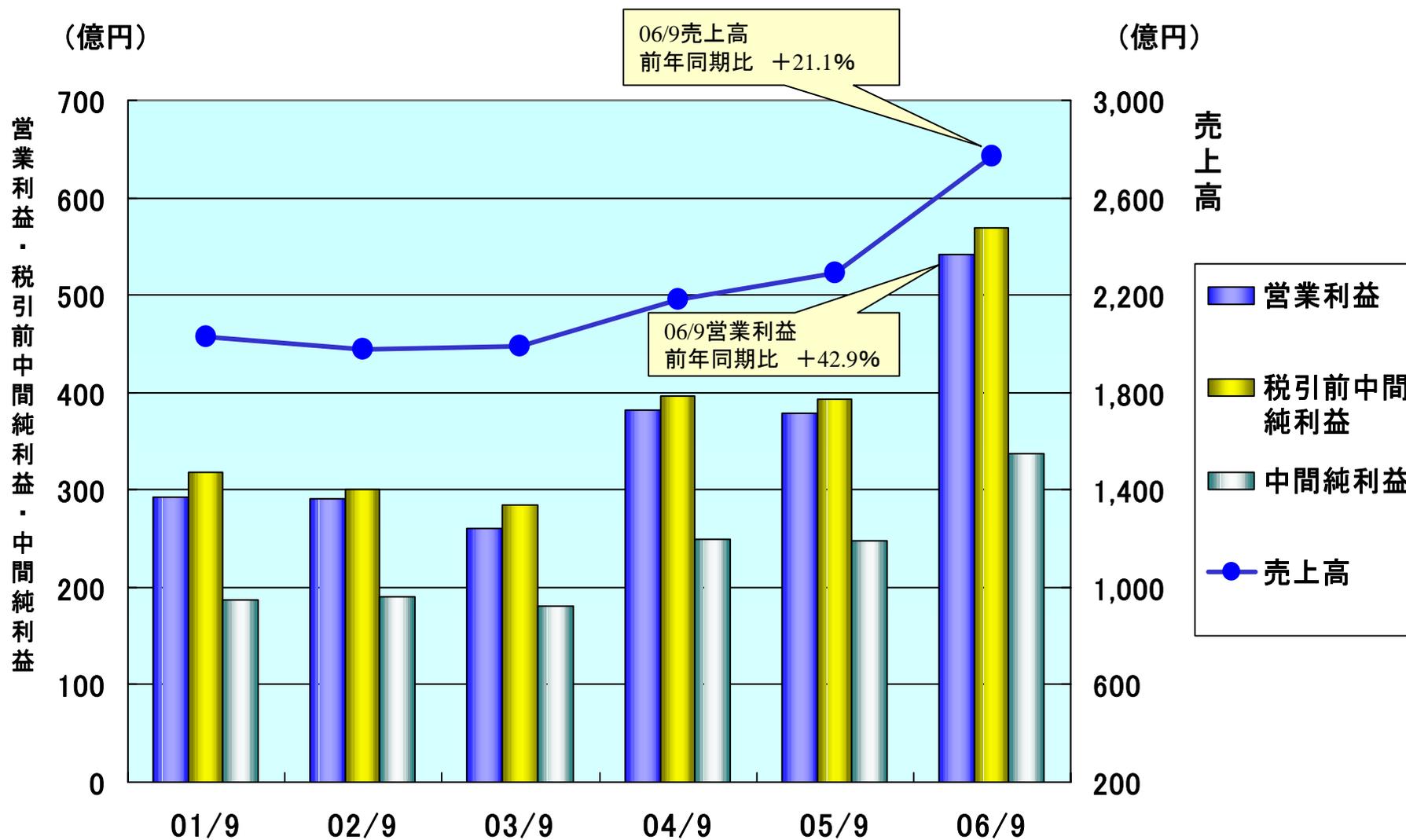


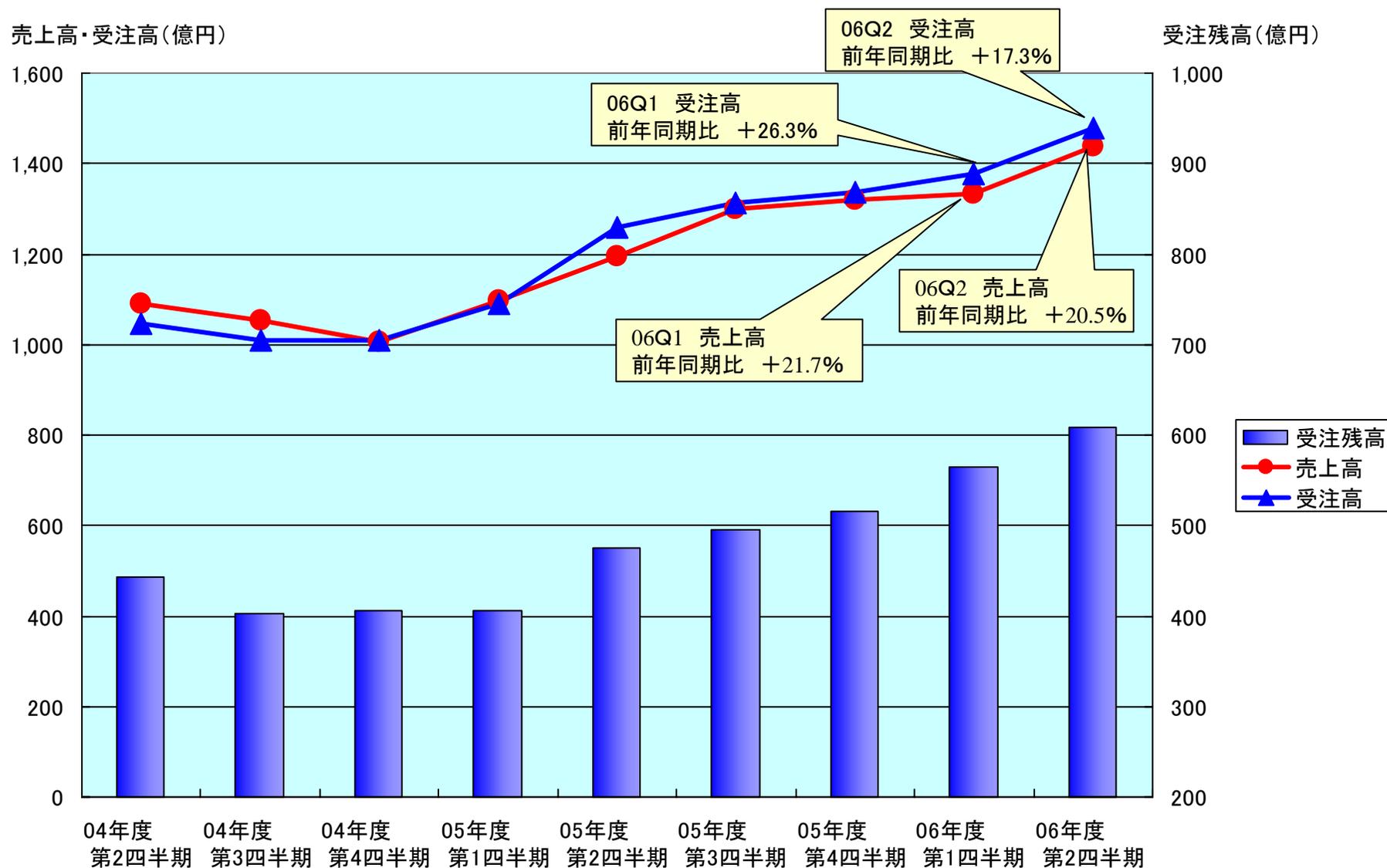
# 2007年3月期 中間決算説明会

株式会社 村田製作所

# 当中間期の業績概要（連結）



# 四半期の売上・受注・注残推移(連結)



## ▪ 携帯電話

第3世代機やBluetooth<sup>®</sup>搭載タイプなど高機能端末の需要拡大  
中国、インドなどの新興地域における旺盛な需要

## ▪ PC及び関連機器

ノートパソコンが好調、MPUのデュアルコア化が進展

## ▪ デジタルAV機器

液晶やPDPなどの薄型テレビ、ゲーム機、DSCなどの生産台数増

## ▪ カーエレクトロニクス

カーナビの搭載率向上、安全装置などの電装化の進展

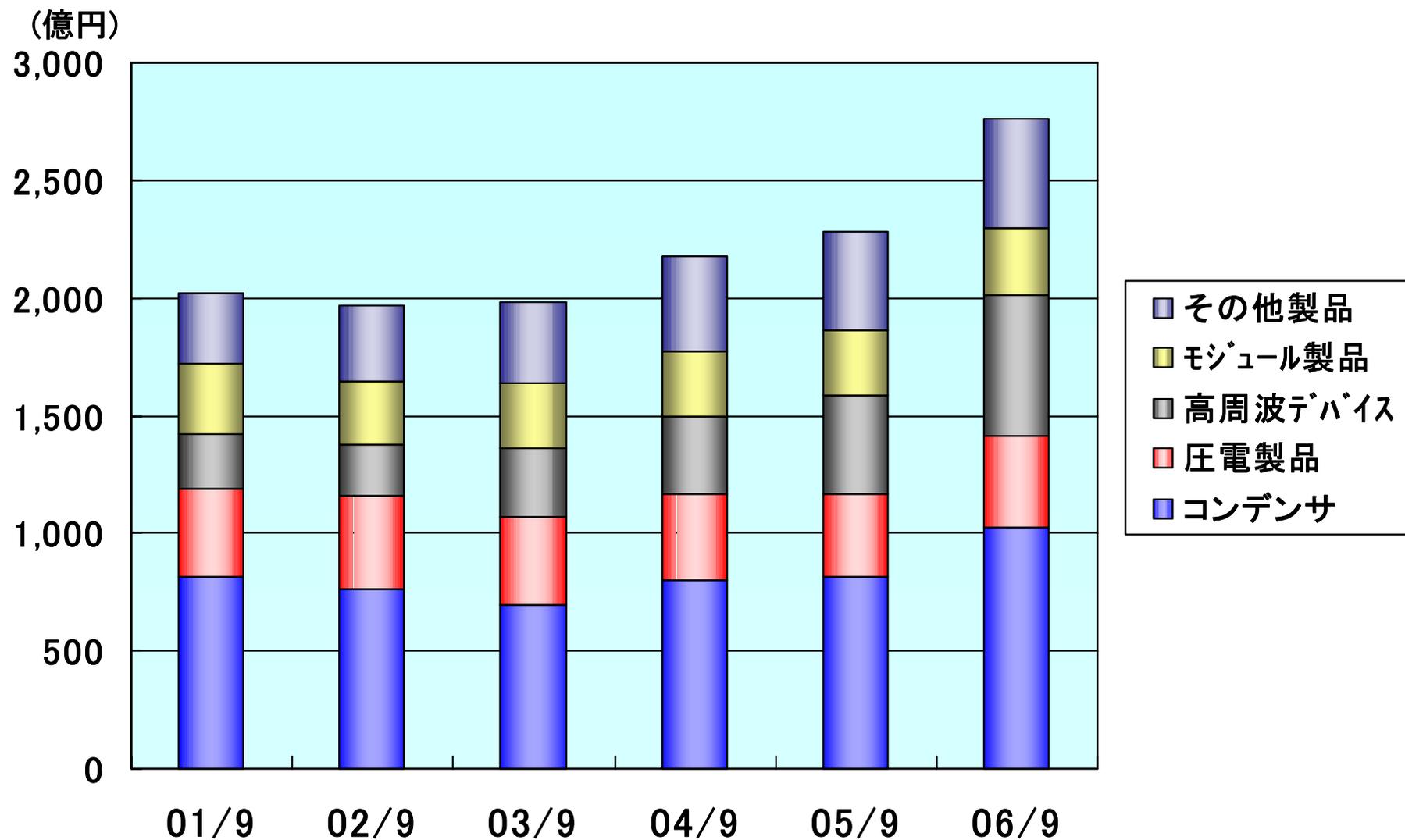
(注) Bluetoothは米国Bluetooth SIG, Inc.の商標です

# 製品別売上高（連結）



	2005年度 中間期		2006年度 中間期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	812	35.6	1,024	37.1	+213	+26.2
圧電製品	355	15.5	390	14.1	+35	+9.9
高周波デバイス	421	18.5	599	21.7	+178	+42.3
モジュール製品	278	12.2	281	10.2	+2	+0.9
その他製品	416	18.2	468	16.9	+53	+12.7
製品売上高計	2,281	100.0	2,762	100.0	+481	+21.1

# 製品別売上高推移（連結）



## 1) コンデンサ

（1,024億円、前年同期比 +26.2%）

### チップ積層セラミックコンデンサ

- ・大容量品が、AV機器や通信機器、PC及び関連機器向けなどすべての用途で大幅に増加
- ・0603サイズなどの小型コンデンサは、通信機器向けで大幅に伸長
- ・低ESLコンデンサは、MPU向けで大幅に伸長

## 2) 圧電製品

（390億円、前年同期比 +9.9%）

### 表面波フィルタ

通信機器向けで大きく伸長

### 圧電センサ

小型HDD向けショックセンサが伸長

### セラミック発振子

カーエレクトロニクス向けで伸長したが、AV機器向けやPC及び関連機器向けで減少

### セラミックフィルタ

AV機器向けで減少

## 3) 高周波デバイス

(599億円、前年同期比 +42.3%)

Bluetooth<sup>®</sup> モジュール

携帯電話のBluetooth<sup>®</sup> 搭載率が上昇  
売上高は前年同期比約1.8倍

アイソレータ、コネクタ

通信機器向けに大幅に増加

誘電体フィルタ

通信機器向けに減少

## 4) モジュール製品

(281億円、前年同期比 +0.9%)

### 電源

薄型テレビなどのAV機器向けやPC及び関連機器向けなどで大きく伸長

### 回路モジュール

- ・地上デジタルチューナの増加
- ・VCO(電圧制御発振器)が通信機器向けで大幅に減少
- ・PHS端末などの通信機器用モジュールの減少

## 5) その他製品

（468億円、前年同期比 +12.7%）

### EMI除去フィルタ

AV機器向けや通信機器向けで大きく伸長

### チップコイル

通信機器向けで大幅に伸長

### サーミスタ

通信機器向けで伸長

### センサ関連製品

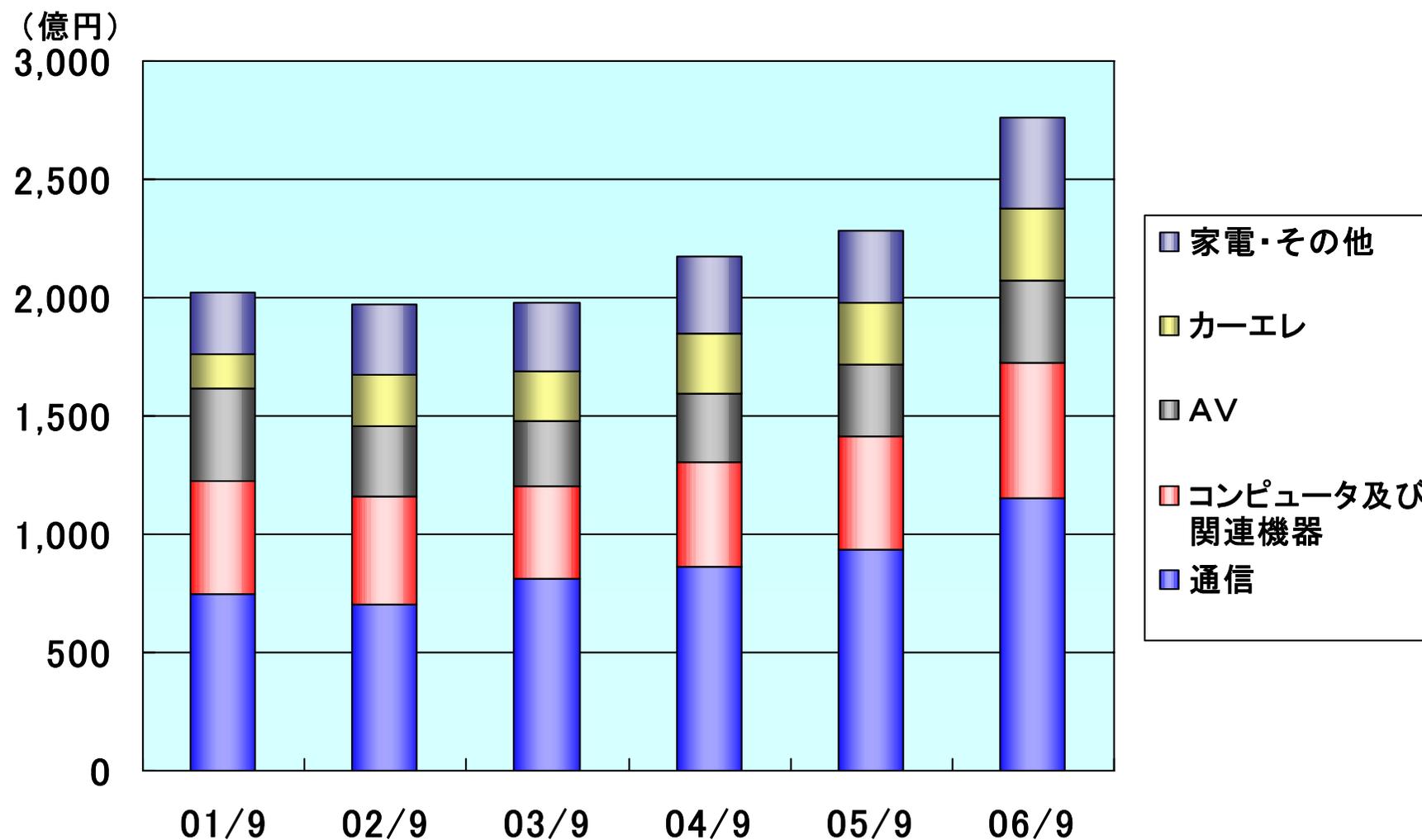
DSC向けでジャイロスター<sup>®</sup>が伸長

# 用途別売上高（連結）



	2005年度 中間期		2006年度 中間期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
AV	304	13.4	350	12.7	+46	+15.1
通信	934	40.9	1,151	41.7	+217	+23.3
PC及び関連機器	480	21.0	571	20.6	+91	+18.9
カーエレ	263	11.5	303	11.0	+40	+15.4
家電・その他	300	13.2	387	14.0	+87	+28.8
製品売上高計	2,281	100.0	2,762	100.0	+481	+21.1

# 用途別売上高推移（連結）



## 1) 通信

（1,151億円 前年同期比 +23.3%）

### 携帯電話向け

- ・第3世代機や高機能端末の需要が拡大
- ・中国、インドなど新興地域における需要の拡大
- ・Bluetooth<sup>®</sup> モジュールが大幅に伸長

### その他通信

基地局向けや無線LANなどで伸長

## 2) PC及び関連機器

(571億円、前年同期比 +18.9%)

### PC向け

- ・ノートPC向けが好調に推移
- ・MPU向けで大容量コンデンサや低ESLコンデンサの需要が拡大

### 関連機器向け

- ・プリンタ向けで電源が好調に推移
- ・HDD向けでショックセンサが堅調

## 3) AV機器

（350億円、前年同期比 +15.1%）

液晶/ PDPテレビ向け

大容量コンデンサ、EMI除去フィルタ、電源が大きく伸長

DSC向け

ジャイロスター<sup>®</sup> が伸長

ゲーム機器向け

コンデンサ、EMI除去フィルタが伸長

携帯型音楽プレーヤー向け

コンデンサ、EMI除去フィルタが伸長

# 用途別売上高（連結）



## 4)カーエレクトロニクス

（303億円、前年同期比 +15.4%）

自動車の電装化の進展に伴い、大容量コンデンサ、Bluetooth<sup>®</sup>モジュール、圧電センサが伸長

## 5)家電・その他

（387億円、前年同期比 +28.8%）

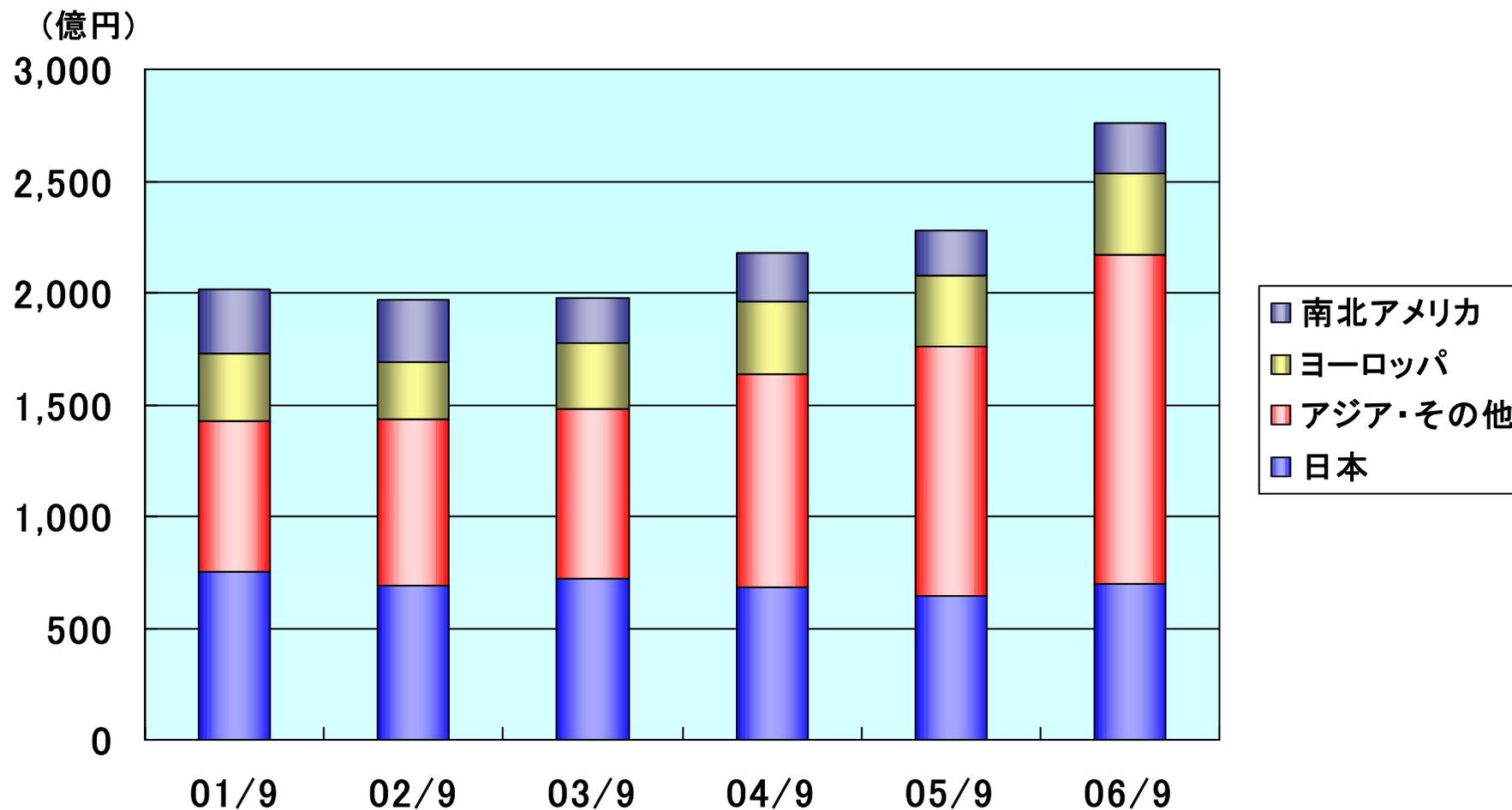
ディストリビュータ向けが伸長

# 地域別売上高（連結）



	2005年度		2006年度		増減	
	中間期		中間期			
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
南北アメリカ	205	9.0	227	8.3	+22	+10.8
ヨーロッパ	320	14.0	365	13.2	+45	+14.2
アジア・その他	1,111	48.7	1,473	53.3	+362	+32.6
日本	645	28.3	697	25.2	+52	+8.0
製品売上高計	2,281	100.0	2,762	100.0	+481	+21.1

# 地域別売上高推移（連結）



## 【利益増減要因(プラス要因)】

- ・操業度の拡大

2005年度上期:100% → 2006年度上期:110%弱

- ・生産性改善、小型化・高機能化・複合化した新製品への置き換え

(新製品売上高比率)

2005年度上期:38% → 2006年度上期:40%

- ・為替円安の進行

2005年度上期:1米ドル=109.5円

→2006年度上期:1米ドル=115.4円

# 利益増減要因(連結)



## 【利益増減要因(マイナス要因)】

- ・減価償却費の増加

2005年度上期:204億円 → 2006年度上期:219億円

- ・販売費及び一般管理費の増加

2005年度上期:348億円 → 2006年度上期:383億円

- ・研究開発費の増加

2005年度上期:172億円 → 2006年度上期:203億円

# 利益増減要因(連結)



## 【利益増減要因(マイナス要因)】

- 製品価格の値下がり: 2006年度上期 5.8%  
(2005年度上期 8.1%、2005年度下期 4.9%)
- 貴金属価格(パラジウム・銀)の上昇: 15億円
- SyChip社買収に伴う一括費用計上(研究開発費): 20億円
- 生産関連費用の増加

# 業績概況（連結）



	2005年度 中間期		2006年度 中間期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	2,289	100.0	2,772	100.0	+482	+21.1
売上総利益	899	39.2	1,128	40.7	+229	+25.5
営業利益	379	16.5	541	19.5	+162	+42.9
税引前利益	393	17.2	569	20.5	+176	+44.6
当期純利益	248	10.8	338	12.2	+90	+36.5

# 四半期の業績推移(連結)



	2006年度 第1四半期		2006年度 第2四半期		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	1,333	100.0	1,438	100.0	+105	+7.9
営業利益	253	18.9	289	20.1	+36	+14.3
税引前利益	274	20.5	295	20.5	+21	+7.7
当期純利益	158	11.8	180	12.6	+23	+14.3

# 部品需要予測



## 予測部品需要台数 — 携帯電話 —

9.5億台(期初予想) → 9.7億台(今回予想)

	2005年度			2006年度前提			(億台)
	上期	下期	計	上期	下期	計	通期伸率
販売台数	3.4	4.1	7.6	4.3	4.6	8.9	18%
部品需要台数	3.8	4.5	8.3	4.8	4.9	9.7	17%

(※当社推定値)

(参考: 期初予想)	2006年度前提		
	上期	下期	計
販売台数	4.2	4.5	8.6
部品需要台数	4.7	4.8	9.5

# 部品需要予測



## 予測部品需要台数 —PC—

2.4億台

今回予想は変更なし

	2005年度			2006年度前提			(億台)
	上期	下期	計	上期	下期	計	通期伸率
メーカ一生産台数	1.0	1.0	2.0	1.1	1.2	2.2	11%
部品需要台数	1.0	1.2	2.2	1.2	1.2	2.4	9%

(※当社推定値)

## 直近の受注状況と今後の見通し(連結)

- 7月から9月にかけて非常に高い水準で推移。
- 10月は昨年同様、中国の国慶節休暇の影響があり、中国地域の携帯電話向けを中心に第2四半期の水準との比較ではやや落ち込んでいる。(前年同月比で2ケタの伸びを示す状況は続いている。)
- 年明け以降は季節変動要因もあり、一時的に落ち込むと予想するが、春先には再び高い水準を回復するとみる。

# 通期の業績予想（連結）



	2006年度 上期(実績)		2006年度 下期(予想)		2006年度 通期	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	2,772	+21.1	2,878	+9.9	5,650	+15.1
売上総利益	1,128	+25.5	1,150	+9.6	2,278	+16.9
営業利益	541	+42.9	569	+9.5	1,110	+23.6
税引前利益	569	+44.6	591	+12.9	1,160	+26.5
当期純利益	338	+36.5	362	+7.4	700	+19.8

※2006年度下期四半期別売上高 10-12月期:1,468億円 1-3月期:1,410億円

※半期は前年同期比伸び率、通期は前期比伸び率

# 業績予想の前提(連結)



		2006年度 上期(実績)	2006年度 下期(予想)	2006年度 通期(予想)
減価償却費	億円	219	281	500
販売費及び 一般管理費	億円	383	392	775
研究開発費	億円	203	187	390
設備投資額	億円	419	581	1,000
値下がり率	%	5.8	5.0	11.0
為替レート	円/US\$	115.38	115.00	115.19

# 業績予想の前提(連結)



## ・利益の増減要因

	2006年度 上期(実績)		2006年度 下期(予想)		増減	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	2,772	100.0	2,878	100.0	+107	+3.9
売上総利益	1,128	40.7	1,150	40.0	+23	+2.0
営業利益	541	19.5	569	19.8	+28	+5.1
税前利益	569	20.5	591	20.5	+22	+3.9
当期利益	338	12.2	362	12.6	+23	+6.8

### (プラス要因)

- ・売上の拡大
- ・SyChip社買収に伴う一時費用減
- ・上期一括費用の減少

### (マイナス要因)

- ・売価値下げ
- ・需要拡大に対応した生産能力の増強に伴う減価償却費の増加
- ・生産関連費用の増加
- ・販管費の増加

# 業績予想の前提(連結)



## ・設備投資

当初計画: 800億円 → 今回計画: 1,000億円

### (設備投資内容)

《生産設備に対する投資》 615億円 (当初計画比+165億円)

大容量コンデンサ、表面波フィルタ、センサ関連製品、原料

《土地・建物に対する投資》 235億円 (当初計画比+35億円)

金沢の新生産棟(表面波フィルタ)

# 用途別売上予想（連結）



## ・用途別売上予想

	2006年度上期実績 前年同期比	2006年度下期予想 上期比	2006年度通期予想 前期比	
			今回予想	前回予想(06/7)
AV	+15.1%	▲3%	+10%程度	+5%程度
通信 計 (内携帯電話)	+23.3% (+31.3%)	+13% (+20%程度)	+20%程度 (+28%)	+20%程度 (+25~30%)
PC及び関連機器	+18.9%	横ばい	+13%	+10%程度
カーエレクトロニクス	+15.4%	横ばい	+10%程度	+5~10%
家電その他	+28.8%	▲10%程度	+10%程度	横ばい
計	+21.1%	+3.9%	+15.1%	+11.0%

## 1) 通信

- 第3世代機をはじめとした携帯電話の生産台数の増加
- コンデンサや表面波フィルタの売上増加
- Bluetooth<sup>®</sup>搭載モデルの拡大
- 無線LAN向け需要の増加

 前期比 +20%程度を想定  
(内、携帯電話向けは前期比 +28%を想定)

## 2) PC及び関連機器市場

- ノートPC向けを中心とした台数増加
- MPUのデュアルコア化による大容量コンデンサや低ESLコンデンサの需要の増加



前期比 +13%を想定

## 3) AV機器

- 薄型テレビ台数増による電源やコンデンサの増加
- DSC向けジャイロスター<sup>®</sup>の伸長
- ゲーム機向けの需要拡大



前期比 +10%程度を想定

## 4) カーエレクトロニクス

- 電装化率の更なる進展



前期比 +10%程度を想定

# 製品別売上予想（連結）



## ・製品別売上予想

	2006年度上期実績	2006年度下期予想	2006年度通期予想	
	前年同期比	上期比	今回予想	前回予想(06/7)
コンデンサ	+26.2%	+3%	+20%程度	+15%程度
圧電製品	+9.9%	+10%程度	+10%程度	+5%程度
高周波デバイス	+42.3%	+5%程度	+25%程度	+20～25%
モジュール	+0.9%	+5%程度	横ばい	±0%程度
その他	+12.7%	横ばい	+5%程度	+5%程度
計	+21.1%	+3.9%	+15.1%	+11.0%

# 通期の業績予想(単体)



## 1) 売上高

4,950億円 (前期比 +17.1%)

## 2) 利益

経常利益 610億円 (前期比 +26.2%)

当期純利益 455億円 (前期比 +23.6%)

## 当期配当金(予定)

1株当たり年間80円(内中間配当40円)

※ 当配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があります、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1) 当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2) 原材料等の価格変動及び供給不足、(3) 為替レートの変動、(4) 変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5) 当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6) 各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7) 偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。